

伝統と革新

1900(明治33)年開校の「岡山県高等女学校(のちの岡山県第一岡山高等女学校、略称・一女)」と1921年(大正10年)開校の「岡山県第二岡山中学校(略称・二中)」を母体に、1949年(昭和24年)に現在の「岡山県立岡山操山高等学校」が誕生しました。

前身から数えると本年度110周年を迎える歴史を持つ、岡山県内有数の伝統校です。

この間4万6千人を超える卒業生が巣立っていきました。日本人女性初のオリンピックメダリスト人見絹枝女史や全国初の女性国会議員の一人近藤鶴代女史、参議院の正副議長を同時に占めた安井謙氏と秋山長造氏なども卒業生です。

一方、平成13年には岡山県下初の県立中学校、岡山県立岡山操山中学校が併設されました。岡山操山中学校の一期生が高校へ入学した年に、単位制教育課程へと改編しました。

操山高校は、1世紀を超える伝統と、教育の今日的課題に取り組み続ける革新性を併せ持った学校といえます。

百年を超える伝統を誇る学び舎

校長からのメッセージ

「個の確立」と「公の創出」

校長 國友 道一

二十一世紀は、新しい知識・情報・技術が、政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われています。社会・経済の各分野での規制緩和が進み、生産活動にも創造性の求められる時代においては、「競争」の原理に基づき、切磋琢磨しつつ自己責任を果たすことが要請されますが、そのためには、幅広い知識や柔軟な思考力・判断力等を身に付ける必要があります。一方、国や社会の中を情報が行き交い、複雑に絡み合っているため、経済不況や環境問題といった大きな課題を解決するには、他者や社会、自然や環境と共に生きる「共生・協同」の意識や態度を持つ必要があります。今ほど「個の確立」と「公の創出」を止揚(アウフヘーベン)し、より次元の高い生き方として総合することが求められている時代はありません。

本校の生徒には、自律的で責任のある「個」を確立し、それが利己主義に陥ることなく、周りの人とのつながりを大切に新しい「公」をつくり出す核になってほしいと願っています。

